

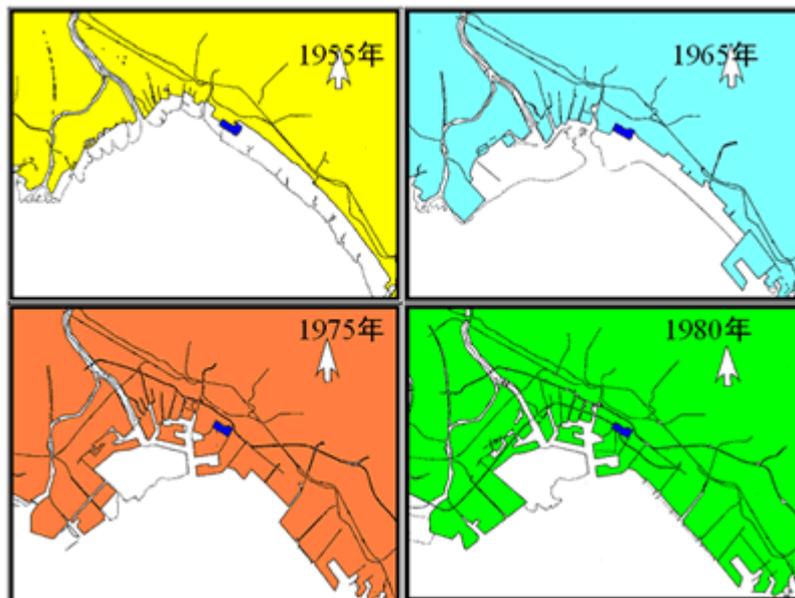
## 谷津干潟の歴史(ラムサール条約登録までのみちのり)

2004年12月17日更新

年月日	歴史
1898年 (明治31年)	谷津干潟は東京湾の最奥部に位置する広大な干潟の一部であった。この遠浅の海岸を利用して、入浜式塩田による製塩場の整備が行われた。しかし、たび重なる暴風雨の被害により1911(M44)に廃業となり、一部はボラ・ウナギ等の養魚場に転用される。この養魚場も1916(T6.9)の大暴風雨で未曾有の被害を受け廃業となる。
1925年 (大正14年)	京成電鉄が海浜レジャー用地として谷津干潟を含む塩田74.8ヘクタールを買収、その一部(約30ha)を谷津遊園地として整備する。谷津遊園は身近なレクリエーション施設として、1982(S57)の閉園まで近郊の人々に親しまれた。
1940年 (昭和15年)	利根川増補計画に基づく放水路整備を図るため、内務省及び運輸通信省が京成電鉄から谷津干潟を含めた49.6ヘクタールを買収。その後、この土地は用途廃止(S30)により大蔵省普通財産となる。
1966年 (昭和41年)	京葉港第二次埋立事業計画が千葉県より習志野市に提示される。
1971年 (昭和46年)	<p>※「千葉の干潟を守る会」結成。習志野・幕張海岸の埋め立て反対表明。</p> <p>「習志野海岸の干潟保護及び埋め立て計画変更について」習志野市議会及び千葉県議会に請願が行われる。(請願者数221名)</p> <p>京葉港第二次埋立事業開始(習志野市域分は約5平方キロメートル)</p> <p>工期:1971-1974(S46-49)</p> <p>※「習志野の埋立と公害に反対する会」結成。</p> <p>「習志野海岸の干潟保護と埋め立て計画変更に関する請願について」が習志野市議会に提出される。(請願者数8名)</p>
1974年 (昭和49年)	<p>習志野市は、京葉港第2次埋め立てについて谷津干潟の埋め立てを前提とした土地利用基本計画を立て、公有水面埋立法に定める地元首長意見として県企業庁に報告。</p> <p>※「大蔵省水面」は「谷津干潟」と呼ばれ始める。</p> <p>※「谷津干潟愛護研究会」設立:干潟清掃及び保全活動を開始。</p> <p>※「千葉県野鳥の会」発足:谷津干潟の保存運動と野鳥調査開始。</p>
1975年 (昭和50年)	「谷津干潟の保全と自然教育園の設置に関する請願」が習志野市議会及び千葉県議会に提出される。(請願者数:9,728名)
1976年 (昭和51年)	「谷津干潟に関する市の調査再開とその利用計画に関する公聴会の開催に関する請願」が習志野市議会に提出される。(請願者数:9名)
1977年 (昭和52年)	環境庁及び千葉県が谷津干潟を国設鳥獣保護区に設定することを計画する。習志野市は市の土地利用計画及び干潟の悪臭対策等を挙げ、保護区設定は未調整となる。

1981年 (昭和56年)	東京湾岸道路のうち、国道部分(357号)が開通。 ※「日本野鳥の会千葉県支部」発足:谷津干潟の保護運動に取り組む。 ※「谷津干潟環境美化委員会」設立:干潟の清掃開始。
1982年 (昭和57年)	※「谷津干潟友の会」設立:谷津干潟の清掃と干潟のPR等活動の拡大を図る。 東関東自動車道路が開通。
1983年 (昭和58年)	環境事業団は習志野地区(谷津干潟周辺)共同福利施設に関する事前調査として、谷津干潟保全整備調査委員会を設置し、干潟の環境調査を実施。(工期:1983-1984.S58-S59)
1984年 (昭和59年)	谷津干潟の保全を含めた習志野地区共同福利施設建設事業決定。(環境事業団施工、完成後習志野市管理)
1985年 (昭和60年)	習志野緑地として香澄公園・秋津公園を都市計画決定。
1986年 (昭和61年)	JR京葉線開通。
1988年 (昭和63年)	「習志野地区(第2期)共同福利施設基本計画策定委員会」を設置。谷津干潟公園を自然生態観察公園として計画する。(工期:1988-1994.S63-H6) ※「財団法人日本鳥類保護連盟」、「財団法人日本野鳥の会」が基本計画策定委員会に委員として参加。 国有財産関東地方審議会において谷津干潟を国設鳥獣保護区に設定し、悪臭対策も含めた都市公園の整備を図ることを条件に、谷津干潟を大蔵省から環境庁へ所管換えする旨の答申がなされる。また、自然環境保全審議会野生生物部会において、谷津干潟を国設鳥獣保護区に設定することが適当である旨の答申がなされ、1988(S63)年11月に環境庁が谷津干潟を国設鳥獣保護区(41.2ha)に設定。なお、一部(40.1ha)を「特別保護地区」に指定。(存続期間:1988.11.1-2007.11.1:S63~H19)
1989年 (平成元年)	習志野緑地に谷津干潟公園を追加都市計画決定。 谷津干潟が大蔵省から環境庁に所管換え。
1992年 (平成4年)	谷津干潟公園の一部開設。
1993年 (平成5年)	6月10日 谷津干潟がラムサール条約登録地(40.1ha)となる。於:第5回ラムサール条約締約国会議(釧路会議)
1994年 (平成6年)	7月1日 谷津干潟公園(自然観察センター含む、21.9ha)全面オープン。 12月4日 第1回「谷津干潟自然観察センター運営懇話会」開催 発足:平成6年12月4日 構成:15名

1995 年 (平成 7 年)	5 月 23 日 谷津干潟保全のための三者協議開始 構成:環境庁野生生物課、千葉県自然保護課、習志野市公園緑地課
	5 月 23 日 谷津干潟環境調査実施(実施主体:環境庁、千葉県、習志野市の三者共同調査)実施 期間:平成 7 年 7 月から平成 8 年 3 月
1996 年 (平成 8 年)	3 月 26 日 谷津干潟が「東アジア～オーストラリア地域・シギチドリ類保全湿地ネットワーク」に参加。(於:第 6 回ラムサール条約締約国会議、参加:10 カ国 24 保護区)
	9 月 29 日 第 1 回「谷津干潟環境保全交流会」開催 発足:平成 8 年 6 月 2 日 構成:谷津干潟の保護活動団体(8 団体)
1997 年 (平成 9 年)	6 月 8 日 第 1 回「谷津干潟の日」記念事業開催市民と行政が協力して「都市と自然の共生」を図っていく取り組みとして、谷津干潟がラムサール条約登録湿地に認定された 6 月 10 日を「谷津干潟の日」に制定。
1998 年 (平成 10 年)	2 月 25 日 「オーストラリア国ブリズベン市と習志野市の湿地提携」の調印式 於:豪州ブリズベン市
1999 年 (平成 11 年)	3 月 4 日 習志野市とブリズベン市の湿地提携に関する第 1 次 5 ヶ年計画協定に調印。
2002 年 (平成 14 年)	6 月 9 日 ブリズベン市・習志野市の教育交流覚書(試行)。
2003 年 (平成 15 年)	6 月 8 日 ラムサール条約登録 10 周年記念事業として習志野市内小学生 8409 余名に対し年度内有効の谷津干潟自然観察センター入館/パスポート交付
	10 月 22 日 習志野市とブリズベン市の湿地提携に関する第 2 次 5 ヶ年計画協定に調印。
	10 月 22 日 クイーンズランド州教育省およびブリズベン市ならびに習志野市教育委員会および習志野市における教育覚書。



谷津干潟周囲の埋立(青が現在の谷津干潟)